

## 透析患者の介護保険施設への入所に関する調査結果について

H25. 11. 18 栃木県高齢対策課

## 1 調査の趣旨

栃木県難病団体連絡協議会長からの平成 26 年度難病行政に対する要望事項において、「長期入院可能な透析施設、又は透析施設を併設する介護保険適用施設の整備」について要望されたことから、県内の介護保険施設を対象に実態調査を行ったものである。

(1) 調査期間 : 平成 25 年 10 月 18 日 (金) ~ 平成 25 年 11 月 12 日 (火)

## (2) 調査対象

| 区 分                     | 施設数 | 回答数 |
|-------------------------|-----|-----|
| 介護老人福祉施設 (以下「特養」という。)   | 118 | 118 |
| 介護老人保健施設 (以下「老健」という。)   | 63  | 63  |
| 介護療養型医療施設 (以下「療養型」という。) | 8   | 8   |
| 計                       | 189 | 189 |

## 2 調査結果の概要

## (1) 透析可能な併設医療機関の有無

■有: 10 施設 (特養 1、老健 8、療養型 1)

■併設医療機関「有」と回答した施設のうち、1 施設を除き「受入可能」。1 施設は「職員の人員関係上通院介助が困難」として「受入不可能」としている。

## (2) 介護保険施設に入所中の透析患者数

■合計 36 人: 7 施設 (特養 3、老健 4)

■内訳 1 人: 2 施設 (特養 2)、2 人: 2 施設 (特養 1、老健 1)、

4 人: 1 施設 (老健 1)、6 人: 1 施設 (老健 1)、20 人: 1 施設 (老健 1)

※参考 県内の透析患者数 (60 歳以上) 4,169 人 (H24. 12. 31 時点)

## (3) 受入れの可否

|     | 可能 |      | ケースバイケース |      | 不可能・困難 |      | 無回答 |     | 計   |       |
|-----|----|------|----------|------|--------|------|-----|-----|-----|-------|
|     |    | 割合%  |          | 割合%  |        | 割合%  |     | 割合% |     | 割合%   |
| 全 体 | 13 | 6.9  | 41       | 21.7 | 132    | 69.8 | 3   | 1.6 | 189 | 100.0 |
| 特 養 | 5  | 4.2  | 38       | 32.2 | 72     | 61.0 | 3   | 2.5 | 118 | 100.0 |
| 老 健 | 7  | 11.1 | 2        | 3.2  | 54     | 85.7 | 0   | —   | 63  | 100.0 |
| 療養型 | 1  | 12.5 | 0        | —    | 7      | 87.5 | 0   | —   | 8   | 100.0 |

■医療的ケアの充実している老健・療養型ほど、可否を明確にしており、可能又は不可能・困難の回答割合が高い。医療スタッフが手厚くても透析患者の受入れに繋がっていない。

■特に、老健については、受入可能とする割合が高いものの、透析医療に係る費用の一部が介護報酬に包括されているため、経営面から不可能とする意見が出されている。

※参考「医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査」H22 財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会

人工透析を全く受け入れていない施設

□特養 72.5% □老健: 介護療養型 80.0%、従来型 78.0% □療養型: 病院 84.1%、診療所 89.6%